

事例6

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代の患者。左胸部痛、頸部痛で日中に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、吸気時に胸部違和感あり。心疾患評価目的で胸部X 線撮影を依頼。相談を受けた循環器内科医師は、胸膜炎などの確認目的で胸部単純CT 依頼。
- ・ 担当医師と循環器内科医師の 2 名で、肺野条件で画像を確認。狭心症を疑い入院。入院後も胸痛が続き、血圧高値のため心電図モニタを装着して経過観察中に心拍数低下。画像検査から約 5 時間後死亡。
- ・ 死因は大動脈解離破裂。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖 無。
- ・ 画像診断報告書は、死亡の翌日に作成。
- ・ 胸部単純CT (縦隔条件) で上行大動脈に大動脈壁よりも内側にシフトした石灰化と血管壁に沿った高吸収域を認めた。